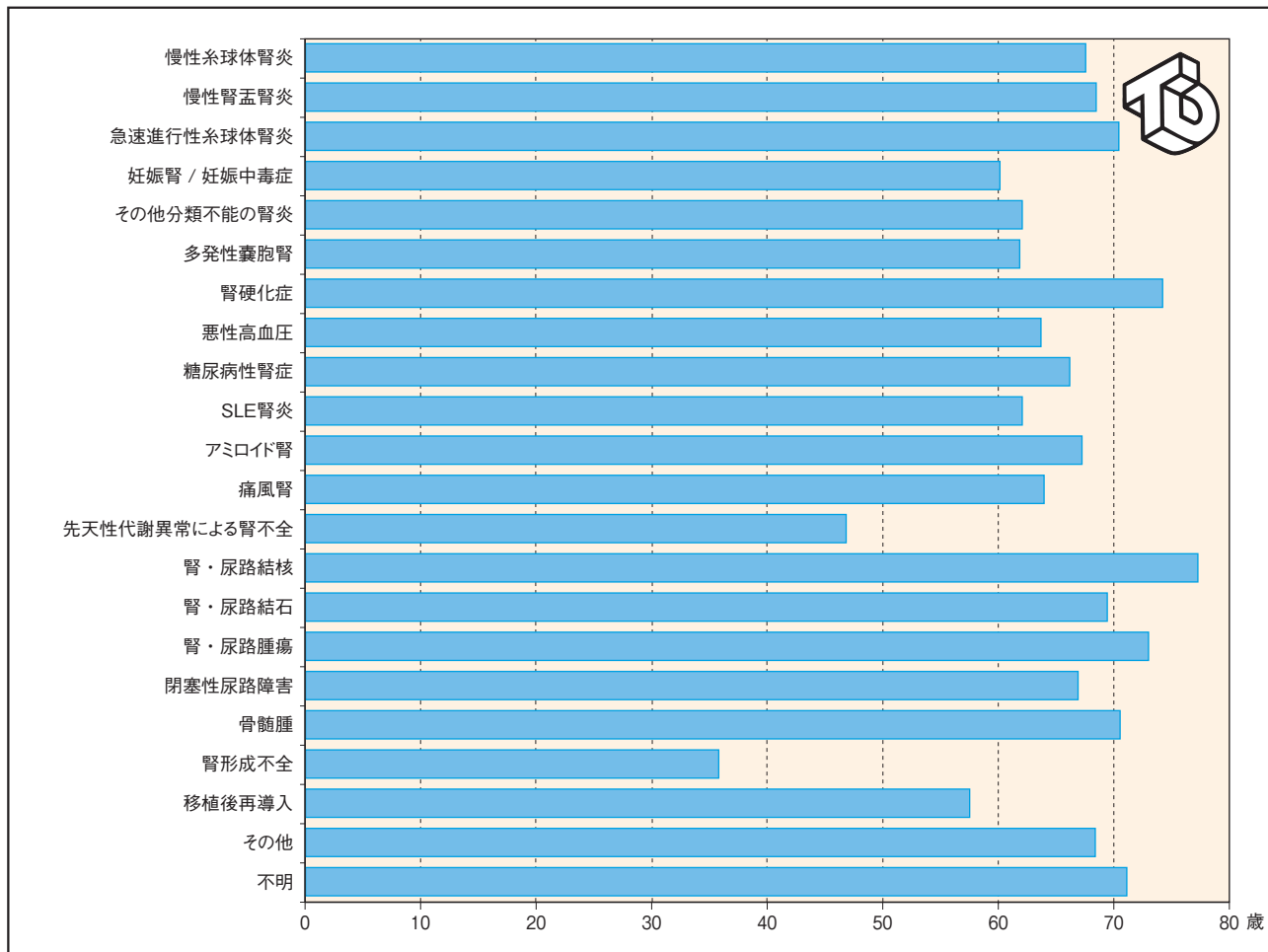


3) 導入患者の現状

(2) 導入患者の原疾患と平均年齢 (図表10)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	7,823 (20.4)	67.52	14.51
慢性腎盂腎炎	255 (0.7)	68.43	14.98
急速進行性糸球体腎炎	483 (1.3)	70.39	12.83
妊娠腎 / 妊娠中毒症	50 (0.1)	60.10	15.30
その他分類不能の腎炎	131 (0.3)	62.03	19.65
多発性嚢胞腎	968 (2.5)	61.81	13.30
腎硬化症	4,482 (11.7)	74.18	11.48
悪性高血圧	295 (0.8)	63.65	16.54
糖尿病性腎症	16,971 (44.2)	66.14	11.94
SLE腎炎	283 (0.7)	62.03	16.17
アミロイド腎	114 (0.3)	67.20	11.89
痛風腎	90 (0.2)	63.92	13.24
先天性代謝異常による腎不全	28 (0.1)	46.79	24.36

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	13 (0.0)	77.23	5.95
腎・尿路結石	66 (0.2)	69.39	9.71
腎・尿路腫瘍	177 (0.5)	72.96	9.89
閉塞性尿路障害	115 (0.3)	66.86	16.37
骨髄腫	148 (0.4)	70.50	10.84
腎形成不全	47 (0.1)	35.76	23.49
移植後再導入	217 (0.6)	57.48	16.07
その他	1,341 (3.5)	68.35	15.09
不明	4,314 (11.2)	71.08	13.41
合計	38,411 (100.0)	67.84	13.39
記載なし	63	67.53	16.78
総計	38,474	67.84	13.40

患者調査による集計

数値右のカッコ内は列方向の合計に対する%です。

解説

透析に導入された患者の原疾患の第一位は糖尿病性腎症で44.2% (前年の割合より0.6%増加)、第二位が慢性糸球体腎炎で20.4% (0.6%減少)、腎硬化症が11.7% (前年と同様)、不明が11.2% (0.5%増加)であった。糖尿病性腎症は2008年に0.1%前年より初めて減少し、2009年には1.2%増加、2010年には1.0%減少と変動する傾向を示し、プラトー状態を示した。一方、慢性糸球体腎炎の漸減傾向に変化はない。

導入時の平均年齢は、糖尿病性腎症で66.1歳 (前年と同様)、慢性糸球体腎炎で67.5歳 (0.1歳減少)、腎硬化症の平均年齢は74.2歳 (0.4歳減少)であった。全体の67.84歳は2010年の67.79歳と比べて0.05歳の増加であり、高齢化も抑制される傾向が見えてきた。比較的若年で導入されているのは、腎形成不全、先天性代謝異常による腎不全などの先天異常によるものであった。